

# A novel scale for measuring social competence in patients with type 2 diabetes receiving hemodialysis

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2022-01-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00065137">http://hdl.handle.net/2297/00065137</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.





## 博士論文審査結果報告書

学籍番号 1229022020

氏名 岡山 未来

論文審査員

主査(教授) 中谷 壽男 副査(教授) 田淵 紀子 副査(教授) 多崎 恵子 

論文題名 A novel scale for measuring social competence in patients with type 2 diabetes receiving hemodialysis (血液透析治療を受ける2型糖尿病患者の「社会力」を測定するための新しい尺度)

## 論文審査結果

## 【論文内容の要旨】

多くの先行研究では、透析が導入されると患者はサポート提供者を含め社会の人々との関係に疎外感や孤独感を抱く存在として報告されている。しかし研究者は、患者は身近な人からより多くの人へと関係を広げ、さらに制限の多い透析療法を安全に達成できるよう自分を成熟させている現象を見出した。本研究では、2型糖尿病透析患者が人と安定した関係を広げる能力や意欲を「2型糖尿病透析患者の社会力」と名付け、その測定尺度の作成と信頼性・妥当性の検討を目的とした。

子どものための社会力測定尺度を基に、2型糖尿病透析患者の社会力尺度原案6因子41項目を作成し質問紙調査を行った。構成概念妥当性は探索的因子分析、基準関連妥当性は本尺度と Kikuchi's Scale of Social Skills(以下、KiSS-18)および Sense of coherence (以下、SOC)との相関分析、内容妥当性は内容妥当性指標(以下、CVI)、信頼性は Cronbach $\alpha$  係数を算出した。

回収176名(回収率88.0%)、有効回答163名(有効回答率93.0%)、男性121名、女性42名、年齢65.1 $\pm$ 10.3歳、透析歴6.0 $\pm$ 4.7年であった。I-T相関にて3項目除外、G-P分析にて1項目除外、探索的因子分析にて5因子32項目が採択された。累積寄与率49.05%、全項目の Cronbach $\alpha$  係数0.89であった。第1因子7項目「家族への自立と依存のバランス」、第2因子8項目「身近な人への信頼と親近感」、第3因子5項目「人への信頼感」、第4因子8項目「糖尿病であることへの関心」、第5因子4項目「身体への信頼感」と命名した。本尺度得点との相関係数は、KiSS-18では0.496 ( $p<0.01$ )、SOCでは0.160 ( $p<0.01$ )であった。CVIは尺度全体0.96であった。

本尺度の信頼性と妥当性が確認され2型糖尿病透析患者の社会力を数量化することが可能になった。

## 【審査結果の要旨】

これまで糖尿病透析患者には、他者への攻撃性や依存、家族や医療者間でのトラブルなど否定的な人間関係の報告が多かった。しかし本研究より、糖尿病患者から新たに透析患者として歩む中、患者が家族のみならず治療のサポート者および社会の人々と安定した関係を築き療養生活を送るためのケアの可能性を見出した。質疑は、尺度開発の基盤に子どもの社会力測定尺度を用いた理由、対象者のリクルート方法、臨床への応用等についてなされたが、結果に基づく適切な応答態度であり、分析の視点・考察を深めることにつながった。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。